

1. 日時 令和7年1月21日(火) 5時間目

2. 場所 体育館

3. 対象者 2年生

4. 講師 岐阜大学医学部附属病院 小児科 小関 道夫 先生



## 5. 講話のねらいと内容

がんの現状やがんとはどのような病気であるかを正しく知ること、がんには様々な要因があることを理解し、がんの予防や早期発見のために自分たちの生活の中でどんなことができるかを考える。

がん講話は、今年度初めて行った新たな講話です。2年生は、保健の授業でがんについて学習しているため、専門的な話を聞くことでより正しい理解を深めたいと思い、実施しました。

事前のアンケートでは、「がん」=怖い、命に関わるというイメージをほとんどの生徒が持っていて、「がん」にならないための方法や対策を知りたいという声が多くありました。

今回の講話では、そういった生徒の疑問に答える形で、小関先生から「がん」の原因や治療方法などを詳しく教えていただき、生活習慣や予防接種によって「がん」にかかる可能性を低くすることができることや、早期に発見すれば治る可能性が高くなること、早期発見のために検診が大切であることを学ぶことができました。

## 6. 生徒の感想



○食事や運動不足ががんにつながることを初めて知りました。

○まだかかるリスクは少なくとも知っておくことは大切だと思いました。

○自分も進路が医療関係に行きたいと思っているので、とてもいいお話が聞けたかなと思います。

○早期発見が大切だから、親や家族にがん検診に行くよう伝えたい。

○がんは予防もできるし、治すこともできると知って安心した。

○がんになりにくくするために、食生活や生活習慣を見直したいと思った。また、タバコは絶対に吸わないと決めた。お酒も程々にしようと思った。早期発見するために違和感があったら病院に行こうと思った。

○私は子宮頸がんのワクチンを打ったけど、打ってる人や知ってる人が思っていた数倍少なくて驚いた。打ってよかったと改めて思った。

○がんについてよく知ることができて、良い機会になった。講話を聞く前は、「がん＝怖い病気」だと思っていたけれど、講話を聞いて「がん＝身近な病気」だということを知ることができた。

○私はがんでおじいちゃんを亡くしてしまい、怖くてがんのことを詳しく調べたりしたことがなかったのですが、がんをどうすれば早くみつけることができるのか、かからないために気をつけることを知ることができて良かったです。

